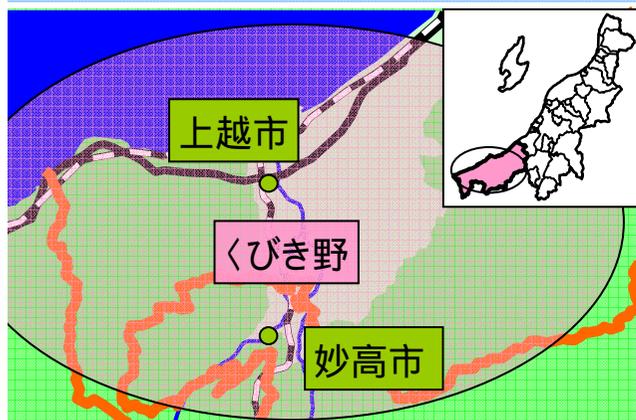


くびき野NPOサポートセンターの活動 (新潟県上越市の例)

みんなの「まち」は、みんなでつろう をスローガンに担い手支援を推進



H10の上越青年会議所の呼びかけをきっかけに、NPOやボランティアの方を対象に、ネットワークを創り、人材面での支援や活動のノウハウ、情報提供を行う拠点として設立。

PR手段が弱い、活動が広がらないなど、個々の団体の課題に対応した支援を行い、地域活動の全体の底上げを目指す。

61の活動団体と104社の企業会員のほか、130名の個人会員からの会費により、各種相談、交流会、講演会、講師派遣、情報誌発行、市民への広報、ボランティア受付などを実施。

- ・地元紙「上越タイムス」との協働により、市民活動の紹介や情報提供などを、毎週4面分を掲載。
- ・個々の団体に対し、会費や寄付だけでなく、事業開発を指導。また、個々の団体活動を公開・開示し、市民に対し、事業支援をPR。
- ・地域の底力の向上を目指し、個々の活動を積極的につなぐ「ぐるぐるプロジェクト」を展開。
- ・人口30万人くらいの顔の見える生活圏域で、市民の参加、企業の支援、行政の理解を得て、自由に活動できる支援機関を目指す。

ボランティア等の活動支援



企業やNPO等の
現地見学会の様子

地元の上越タイムスが地域の応援団として、NPOの活動報告やPR、参加要請等を掲載。企業の担当者による見学会も企画。市町村議員向けの出張講座を実施し、市民活動の重要性をPR。行政職員や企業に対する講座も実施。

上越市は、近隣の13町村と合併。各地域には町内会や団体による有志の住民組織が設立され、産業振興や防災対策など、行政と連携して自主的な活動を促進。



住民組織の
意見交換会の様子

ボランティアハンドブックを作成



ボランティア活動の状況
(あにまるネットワーク・ポニーズ)

地域における身近な289のボランティア活動を紹介したハンドブックを作成。行政機関を含め有料で頒布し、事業収入により支援活動を推進。

- ・イベントへ行く
 - ・会員になる
 - ・ものを買う
 - ・寄付をする
 - ・ボランティアをする
- というように、新たに参加しようとする人の視点に立って、案内情報を掲載。



ボランティア活動の状況
(りとるらいふ)

くびき野市民活動フェスタを開催



くびき野市民活動フェスタ
の様子

毎年、約70の団体が参加。10万部のチラシを作成し、市と町内会の協力を得て、全戸に配布。企業協賛の確保など、参加団体に運営ノウハウを指導し、活動の担い手の裾野を広げる。



高校生も実行委員長
を経験



チラシ仕分け作業
にもボランティアを
活用するなど工夫